

城山校区まつり

事務局長

近藤 英敏

《継続は力なり》

城山校区まつりの活動の概要は30周年記念誌において詳しく書かれておりますので、ここではその後の10年間の活動内容を簡単にご報告することといたします。

1. 活動テーマ

城山校区まつりにおけるこの10年間の活動テーマは「いかにして祭りを継続していくか」このことに尽きると思います。城山町の人口の少子高齢化が進む中、まつりの運営についてもいくつかの大きな問題が発生しそのひとつひとつを乗り越えてきました。

2. 運営上の課題

第一の問題は運営資金です。

町の人口が年々減少していくのに伴い、まつりの運営資金も減少していきました。まつりの運営資金の一番の要は町内の皆様から頂戴する祭典費ですので《町の人々の転出＝祭典費の減少》となります。

第二の問題は実行委員の高齢化です。

今年で町内の方々がこの町に住んで40年、まつりをはじめて38年となります。まつりをはじめた頃は町内の方々も30歳代～40歳代だったでしょうが今は70歳代～80歳代となっております。まつりの運営は事務局の役員を中心に3町内(城山町1丁目・2丁目・見晴台)の各班長さんに実行委員になっていただき、まつりの事前準備作業や会場づくり・後片付けまでお手伝いしていただくことによって開催されてきました。

この作業が高齢になるにつれて負担となってきたのです。

第三は子どもの減少です。

まつりをはじめた理由の一つに町の子どもたちが一つになって楽しむ姿が見たいとの親の思いがありました。そこで、子どもたちが中心となって楽しめる行事として子どもみこしや子ども花火を行ってきましたが、年々参加してくれる子どもの

数が減少しています。

3. 課題解決

これら3つの大きな問題に対して実行委員会として行ったことは

①予算の儉約

第32回(平成28年度)のまつりから

＊春の「桜まつり」でのライトアップを中止

＊秋のまつりの「食の祭典」を中止

この予算を夏まつりに振り向けました。

第34回のまつりでは

＊ステージカーを中止

②高齢者対策

＊開催期間を短縮

第32回からそれまで祭りの前日の土曜日に行っていた会場づくりを当日の午前中に変更し負担感を軽減しました。

＊平舞台の設置

第34回からステージカーを取りやめましたのでそれに代わる舞台の設営が新たな負担になっては困るので平舞台で行うことにしました。

＊開催日を1か月遅らせる

第35回(令和元年度)では前年度の教訓から開催日をそれまでの7月の最終土・日としていたのを1か月遅らせて8月の最終土曜とすることにしました。これにより暑いさなかの作業が初秋の作業となり体の負担軽減に繋がりました。

③少子化対策

＊子どもみこしの中止と復活

第33回に子どもみこしを中止しましたが、子どもみこしがないと寂しいとの意見が寄せられ、第34回では担ぐルートを短縮して復活いたしました。

4. 開催日変更

第34回のまつりでは当初予定していた日(7月28日)に台風が直撃する予想が出たため開催を1か月遅らせて9月1日に延期しました。過去に延期したことはなく初めての延期になりました。これに伴って、まつりで使用するために既に用意してあった食材を廃棄することになる所でしたが、実行委員長が発案で福祉施設に引き取っていただき廃棄せずに済みました。

5. コロナ禍での中止

第36回は世の中がコロナ禍となり城山まつりも中止を余儀なくされました。